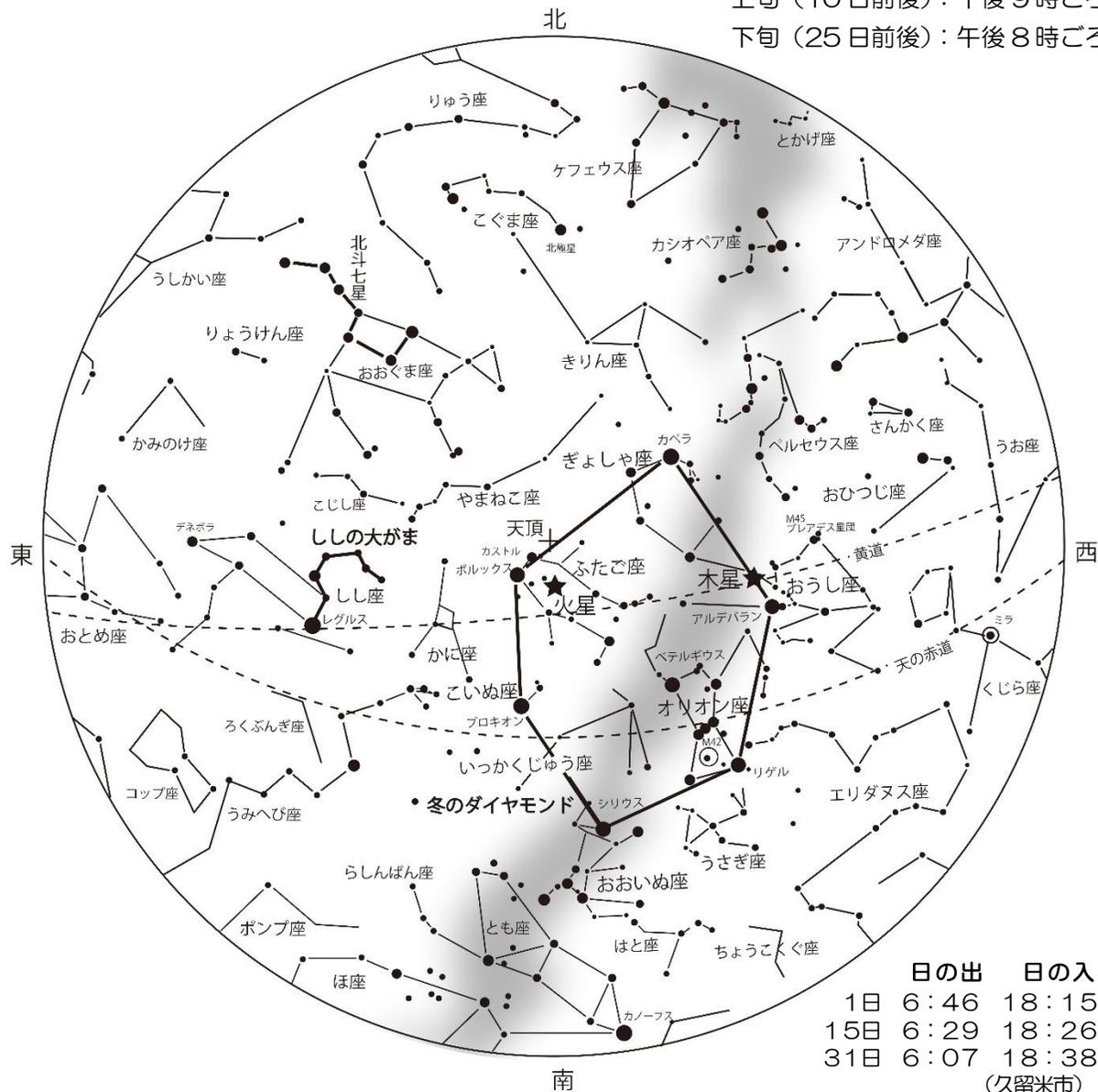


令和7年 3月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～

上旬（10日前後）：午後9時ごろ
下旬（25日前後）：午後8時ごろ



★3月の星空案内

日一日と温かさを感じられるようになり、季節の移り変わりを肌で感じる今日この頃。夜空には、南から西の空にかけて、まだまだ冬の星座たちが輝き、東から南の空にかけて、見え始めた春の星座たちが輝いていますよ。今月は星空さんぽをしながら、季節の移ろいも感じてみませんか。

まずは、冬の星座探しの案内役となる**オリオン座**を探していきましょう。オリオン座は等間隔に並んだ3つの星

“**三ツ星**”と、それを取り囲む明るい4つの星がつくる砂時計のような星の並びが目印です。オリオン座の左上で赤く輝く星は1等星の**ベテルギウス**、右下で青白く輝く星は1等星の**リゲル**です。オリオン座の三ツ星を結ぶ線を南東（左下）にのばしていくと、明るく輝く**おおいぬ座**の1等星**シリウス**が見つかります。そして、ベテルギウスから東側の空を見ると、**こいぬ座**の1等星**プロキオン**が見つかります。さらに天頂（観測者の真上に当たる点）近くには**ふたご座**の1等星**ポルックス**が見つかります。また、オリオン座の北側には、黄色く輝く**ぎょしゃ座**の1等星**カペラ**が見つかります。オリオン座の三ツ星を結ぶ線を北西（右上）にのばしていくと、オレンジ色に輝く**おうし座**の1等星**アルデバラン**を見つけることができます。**リゲル**、**シリウス**、**プロキオン**、**ポルックス**、**カペラ**、**アルデバラン**の6つの1等星を結んでできる大きな六角形を『**冬のダイヤモンド**』と言います。

また、南東の空を見ると「？」マークをひっくり返したような星の並びがあります。これを『**ししの大がま**』といいます。ししの大がまの一番下にある星はしし座の1等星**レグルス**です。「ししの大がま」はしし座の一部で、ししの頭から胸の部分にあたります。

冬と春、二つの季節の星座たちを見ることができる3月の星空、ぜひ楽しんでみませんか？

【惑星の見え方】（☆マークは、今月のおすすめです。）

水星（-0.7等前後）	：うお座付近	観望に適さない。
金星（-4.3等前後）	：うお座付近	上旬は日の入り後、西の低空で輝くが、中旬以降は観望に適さない。
☆火星（0.1等前後）	：ふたご座付近	宵の頃、南から南西の高い空で輝く。
☆木星（-2.2等前後）	：おうし座付近	宵の頃、南西から西の空で輝く。
土星（1.1等前後）	：みずがめ座付近	観望に適さない。

注目の天文現象（3月）～皆既月食（14日）・部分日食（29日）～

今月は皆既月食と部分日食が起こります。しかし、残念ながら、日本で観測するのは難しいです。ただ、テレビやインターネットで、目にする機会があるかもしれませんね。今回は、月食と日食の仕組みについて、説明したいと思います。

【月食の組み】

地球と月は、太陽の光を反射して輝く天体です。地球にも太陽の光による影があり、太陽とは反対の方向に伸びています。この地球の影の中を月が通過することによって、月が暗くなったり、欠けたように見えたりする現象が「月食」です。

今年は、全世界的に見て2回の皆既月食が起こります。その1回目となる14日の月食は、北海道などで見える可能性があります。観望は難しそうです。

【日食の仕組み】

月が太陽の前を横切るために、月によって太陽の一部（または全部）が隠される現象で、太陽の隠され方によって、部分食・皆既食・金環食に分類されます。

日食も今年は全世界的に見て2回日食が起こります。どちらも部分食です。今回の日食が見られるのは、グリーンランドやヨーロッパ、アフリカ北西部などで、日本では全く見ることはできません。次の日食は9月22日ですが、こちらも、残念ながら、日本では全く見ることはできません。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
7	金	☾上弦（01:32）	20	木	春分（18:01）
8	土	水星が東方最大離角	22	土	☾下弦（20:29）
14	金	☉満月（15:55）	29	土	☉新月（19:58）